



オールヤマハで実現！ 快適なネットワークの新事業拠点を開設

導入製品



導入企業様 株式会社ココナラ



本社

東京都渋谷区桜丘町20-1
渋谷インフォスタワー6階

URL

<https://coconala.co.jp/>

デザインやイラスト、Webサイト、動画、音楽などの制作やビジネス・マーケティングのサポート代行、キャリア相談といったさまざまな「知識・スキル・経験」を売り買いできるスキルマーケット「ココナラ」をはじめ、同サービスをビジネス利用に特化した「ココナラビジネス」にも注力。さらに、個人と弁護士をつなげる検索メディア「ココナラ法律相談」、ITフリーランスと企業の業務委託案件をつなぐ「ココナラエージェント」も展開している。2012年の創業以来、着実に事業を拡大し、特にここ数年は急成長を遂げている。



お話を伺った方



株式会社ココナラ システムプラットフォーム部
システムプラットフォームグループ 兼 情報システムグループ Group Manager
川崎 雄太 氏 (左)

株式会社ココナラ 情報システムグループ CITチーム
山田 志門 氏 (右)



導入の経緯

事業展開が好調な株式会社ココナラ(以下「ココナラ」)には、以下のような課題が存在していた。

1.限られた期間で新事業拠点のネットワーク設備を整備

2020年に東京都渋谷区に本社を移転したココナラだったが、当時90人だった従業員が事業の成長とともに急増。わずか3年で2倍以上の約200人(業務委託含む)となり、本社の近くに新事業拠点を開設することになった。新事業拠点開設プロジェクトは2022年10月に開始され、約半年で正式稼働を計画。限られた期間内で事業の生命線ともいえるネットワーク設備を迅速に整える必要があった。

2.新事業拠点での快適なネットワーク環境

ココナラでは、オンプレミス設備を廃し、各サービスをクラウドで提供する方針をとっており、事業拠点から外部への接続が確実にあること、事業拠点内のネットワークが快適であることが非常に重要だった。新事業拠点には100~120名の従業員が勤務する計画だったが、在宅勤務も可能なため従業員全員が一度に拠点にて勤務する可能性は大きくない。しかし一方で、アプリケーションのテスト端末・

私物のスマートフォンの接続、さらに今後の人員拡大が見込まれるため、従業員が全員出社した場合でも余裕のあるネットワーク環境を確保することが必要であった。



3.本社での次期ネットワーク設備設計の足がかり

本社では、従業員の拡大に応じてネットワーク設備を随時追加してきた。そのため、導入した機材のメーカーが統一されておらず、ネットワーク管理・運用が非効率になっていた。また、従業員からは「ネットワークがつながりにくいときがある」といった声があがっていた。本社のネットワークリプレースに向けてのモデルケースとして、新事業拠点でのネットワーク整備が注目されていた。



選定理由

☑ 信頼できるヤマハネットワーク製品の最新機種

新事業拠点の新規ネットワーク環境の構築では、5ギガビットのインターネット回線が選択されることになり、今後のトラフィック増大によっては10ギガビットへと拡張することも見据えていた。それに応じて社内ネットワークにおいても構築時からマルチギガビット/10ギガビットに対

応したヤマハネットワーク製品の最新機種「RTX1300」を選定。将来的には、末端の端末まで10ギガビットの通信を行うことも想定している。無線LANについては、社内においてWi-Fi 6対応デバイスを利用する従業員が多いこともあり、Wi-Fi 6対応アクセスポイントである「WLX222」の選定を選定する必要があった。前述の通り、本社ではメーカー不統一

による管理・運用の非効率さが課題となっていたため新事業拠点ではスイッチ製品についてもヤマハネットワーク製品での統一が図られた。

✓ 高い堅牢性とコストパフォーマンス

コナラ社内でネットワーク製品の選定やセキュリティ対策を担当する山田氏は、以前よりヤマハネットワーク製品を含むさまざまなメーカーの製品に触れる機会が多かった。その中で強く感じていたことは、ヤマハネットワーク製品の高い堅牢性とコストパフォーマンスの高さだった。また中規模のオフィスにおいては、ヤマハネットワーク製品の堅牢性・性能を考えたとき、費用対効果が最も高いと考えた。コナラでは自社運用を前提としているためファームウェアの更新においても自社で対応できるヤマハネットワーク製品が適していると考えた。

🌐 導入後の効果

最新機能で手間なく快適な無線LAN環境を設定

アクセスポイントの設置においては、アクセスポイント本体が周辺の無線環境をモニタリングしながら、ネットワーク管理者が想定する無線LANの利用イメージに近づくように、設定を無線環境に合わせて動的に変更して最適化する「Radio Optimization機能」を活用。高密度でも快適な無線LAN環境の設定を1フロア6~7台のアクセスポイントに手間なく行うことができた。



コナラ株式会社 川崎氏のコメント

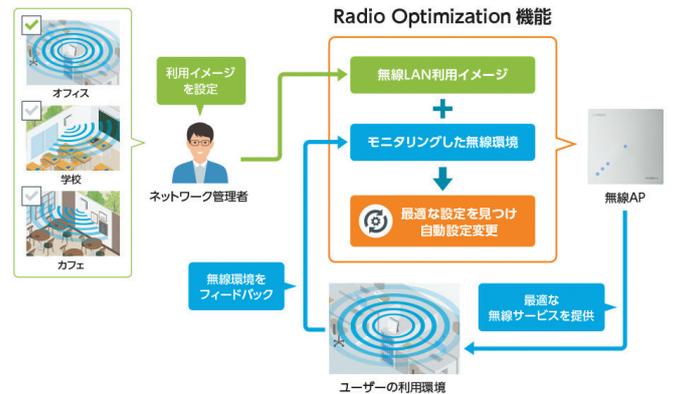
今回のプロジェクトにおける私の最大のミッションは、「従業員のIT利便性の向上」ということでした。導入後に、社員からのネットワークに関する相談があがってこないということこそが、大きな成果だと思っています。また、今回のようにタイムスケジュールが厳しいプロジェクトの場合、たとえ最良の製品選定だったとしてもリードタイムが確保できなければ選択肢から外さざるを得ません。今回のプロジェクトの成功の1つの理由は、シビアな納期に合わせて柔軟に対応し、製品を供給してくれたジーニーズとSCSKの存在です。弊社は今後さらに事業拡大していくこととなりますが、その際にもぜひ力になってほしいと考えています。

コナラ株式会社 山田氏のコメント

今回のプロジェクトでは、限られた期間内で期待どおりのネットワーク環境整備ができたと考えています。特に、マルチコアの「RTX1300」の実力が十分に発揮されて運用できていると実感しています。無線LANについても、トラフィック負荷が集中しないように意識的に設計したこともあり、全般的に快適に通信できていると思います。業務を止めることのないようにとの思いでこだわったルーターとL3スイッチの冗長化についても、SCSKの「CarePlus」サポートを利用することで、24時間365日のセンドバック保守によって、たとえ1台故障しても維持できることになっているので安心です。私がヤマハネットワーク製品に信頼を置いているのは

✓ ヤマハネットワーク製品に対する信頼

ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり世界的に深刻な半導体不足に陥っていた。多くのメーカーのネットワーク製品もその影響を受け、製品供給がままならないこともあった。今回のプロジェクトでは新事業拠点立ち上げ完了までの時間が限られていたため、計画通りの確実な製品の納入が必須要件だった。今回選定されたヤマハネットワーク製品はすべて納品遅延の懸念が無く、迅速なネットワーク設備の整備を可能にした。



事実ですが、今回のプロジェクトでは「ヤマハネットワーク製品ありき」というわけではありませんでした。選定時点でベストなものを選定したら、ヤマハネットワーク製品にいきついたのです。ユーザーに求められる機能はその都度変化していきます。プロジェクトにおいては、SCSKとの関係を築いていく中で、今回はヤマハネットワーク製品がベストであるという結論に至りました。我々の上司である決裁担当者も納得して、製品選定に至りました。

株式会社ジーニーズ 山岡氏のコメント

本プロジェクトを担当した弊社技術メンバ(古森)はシステムの可用性とセキュリティ視点に重点に置き、構築支援および無線サーベいを担当させて頂きました。古森自身、今回のプロジェクトで採用された機器に関して、初めて触る機器もございましたが、ヤマハ製品は公開されているテクニカル情報が整理され、またユースケースも非常に豊富に展開されており、何か課題が出て臨機応変に対応できる安心感があります。弊社はNierと言う立場でこれまで他社製品等も色々導入してきておりますが、ヤマハ製品はサービスをローンチからの安定性が良く、運用フェーズに入ってからの手離れも良い為、営業的な立場としても推奨したい機器でございます。

(株式会社ジーニーズ 営業本部 アカウント営業部 部長 山岡 正記氏)



SCSK SCSK株式会社

SCSK株式会社 プロダクト・サービス事業グループ
ネットワークセキュリティ事業本部 ネットワークプロダクト第一部
〒135-8110 東京都江東区豊洲3丁目2番20号豊洲フロント

☎ 03-5859-3032 ✉ rt-info@scsk.jp

SCSK株式会社はヤマハネットワーク製品の国内総販売元です。

当部公式SNSにてヤマハネットワーク製品に関する最新情報を日々お届けしております。



Youtube



Instagram



Twitter

記載されている会社名、製品名は一般に各社の登録商標あるいは商標です。